



のうじん
豊橋百農人代表
河合 浩樹さん(49)

よりよい農業へ 知恵を出し合う

の時、知り合いから「農業なんてやっても儲かるの」と言われたのがきっかけ。当時、農業は肉体的労働でなかなか若い若者が嫌う仕事の典型。だからこそ農業を賭けてみたいと思いついた。

豊橋で盛んではなかったレモンの栽培を、11年前に始めましたが、試行錯誤の連続。5年後、ようやく販売にこぎ着けたものの、認知されていなかったため、光が見えたのは10年前。インターネットに関東地方の農

しました。すると少しずつ注文が増え、現在は東京や大阪などから私の農園を見に来るお客さんもいます。

農業には質の高い野菜や果物を作るだけでなく、顧客獲得や広報のための努力が欠かせないと痛感しました。一人で悩まず、多くの農家が集まり、知恵を出し合えばよりよい農業の在り方を提示できるはず。 「百農人」の僕という字は「わし」とも読めます。知恵の宝庫だった古者たちがかつて使っていた言葉です。その字をシンボルにして、皆で支え合い、農業のスペシャリストになろうと奮闘しています。

(聞き手・池内琢)

ゆめ
人
きらり

かわい・ひろき 1962(昭和37)年4月生まれ。静岡大農学部卒業後、家業の果樹農家を継ぐ。農業

のスペシャリスト養成を目指して2年前、仲間と豊橋百農人を設立。豊橋市中原町在住。

農業を自動車産業など他の産業と同じように夢のあつる仕事として認めてもらいたい。そんな思いで2年前、豊橋市内の友人らと「豊橋百農人」を立ち上げました。現在は豊橋市や中原市の柿や大葉、茶農家ら十人が参加しています。

豊橋百農人は、参加者や

支援者が個々の農園の栽培方法や経営状態を審査し、ランキング結果をホームページ(H.P.)で公開してい

ます。審査項目は百以上。回、会合を開いて評価の見家が開いていたH.P.に気づいたのです。早速、メールでの仕事を二時間半で紹介できるかといったユニークな栽培する果樹農家だ。全国の客から注文があること。早速、自分も開設

な基準もあります。年二つた家業を継ぎました。そのこと。早速、自分も開設